

平成21年度第4回日進市障害者自立支援協議会小委員会議事録

日 時 平成21年10月21日（水） 午後2時30分～午後5時00分

場 所 中央福祉センター多機能室・南

出席者 <委員>加藤統祥 川原喜代美 脇田勝広 林和子 大島淳子  
熊谷豊 山田達巳 小林千津子

<欠席>なし

<事務局>福祉部：山中参事

福祉課：松田課長、石川課長補佐

傍聴の可否 可

傍聴の有無 13名

議 題 1 自立支援協議会への報告書のまとめ方について

2 その他

座 長 ただいまから第4回小委員会を開催します。本日は報告書の案について検討します。その前に委員の交代について事務局から説明をお願いします。

事務局 先日、加藤奈々枝委員から体調不良による辞任願いが出された。加藤委員は名東福祉会からの推薦であるため、他の方の推薦を依頼したところ、山田達巳さんを推薦いただいた。本日から山田達巳さんを委員としてお願いすることとなる。

座 長 事務局から案の概要を説明願います。

事務局 （資料説明）

座 長 たたき台として作成してある。皆さんで論点、課題を整理していきたい。自立支援協議会への報告となるので広い視点で協議いただきたい。数字、全体構成などはどうか。また論点と課題については時間をかけたいと思う。

団体概要の部分に間違いなどはないか。

委 員 （数箇所修正意見あり）

事務局 どういう団体にヒアリングを行ったかが分かればよいと思う。

委 員 自立支援協議会の委員が見るものなので、障害別は分かった方がいい。

事務局 障害別、当事者か親かなどという点が分かればよいと思う。

委 員 主たる障害種別を入れてはどうか。

委 員 どういう団体からどのような意見が出たかが分かるようにしたいということ。

座 長 各団体に問い合わせて、整理してはどうか。

事務局 そのようにする。

座 長 ヒアリングでの意見のまとめ方として、表を2パターン作成してある。4項目に分けたものと、6項目に分けたものがある。

委 員 各団体がこれを見てどう感じるか。

委 員 前回提案があったので表を作ってもらったが、その理由、コメント、根拠が

無いといけない。この表がどの部分と整合するのかが分からない。視覚にうったえることは強い印象を与えるので、なぜそのようになったかが分からないといけない。自立支援協議会等に示すには確かでないといけない。

座長 前回、ヒアリングで出た意見を表などにしてはどうかとあったので、2パターン作成してあるが、横軸をどうするかは協議していただきたい。表をどう見るのかなどの説明書きが必要だということはそのとおりだと思う。

委員 この表の案は何をもとに作成してあるのか。

事務局 資料の末尾に付けてある、ヒアリングでの意見を元に分類し、その数を元に作成してある。

委員 言葉の裏にあるものが分からないこともある。

委員 もう一度自分の団体の意見は確認したい。

座長 表そのものはどうか。

委員 2つの図の関連が分からない。

座長 1つ目は、純粹にどういう意見かの整理で、2つ目は、どういう点での意見かで整理してある。

委員 各委員が理解しやすいようにまとめればよい。

委員 協議会に出す報告書なので、他の委員に対してどう示すかが重要。

委員 やはり表にはコメントが必要である。

委員 案にあるマルの意味も説明が必要。

委員 点数化はどうか。中身の重みが分かる。

委員 せっかくヒアリングを行ったが、末尾のヒアリング意見のまとめ方だと発言の裏が見えてこない。

座長 末尾の意見の確認をどうするか、資料として付けるかも含めて検討したい。表でまとめるのは非常に難しい。出た人に確認は必要かもしれない。

委員 ヒアリング時と現在では、みなさんの意見も違ってきているのでそれはどうかと思う。

座長 6分類の項目と、6つの課題は対応していれば良いと思う。

委員 表の新事業部分だが、新事業に期待しているということもそうだが、新事業がはっきりしないといけないということではないか。

委員 6分類の項目と、課題の順は一緒がいい。

委員 意見のまとめ部分と、論点と課題の部分が近くにあると分かりやすいと思う。

委員 1つ目の表の4分類は、関連性が無いので、2つ目の表のように3段階で示す方法がよいのではないか。

委員 それも良いと思う。

委員 表そのものは分かりやすいのであった方がよい。

委員 表から何を訴えたいかを付ければ良いと思う。

座長 1つ目の表を2つ目の表のようにして一度確認してみたい。分類方法は1つに限らず、2つでも良いと思う。ただし、解説は付けなくてはならない。

- 委員 そのためにも団体の意見は再度確認したい。
- 委員 意見は団体によって様々である。高齢者が多い団体では生活面での意見が多い。会の特徴で意見が違ってくるのは当然のことだと思う。
- 座長 アンケート結果について、まとめかたはどうか。
- 委員 母集団の8割が身体障害なので、障害別にまとめられないか。
- 委員 全体集計だと身体障害だけの集計のようになってしまうので、障害別の集計があるとよい。
- 委員 実際に身体障害者の人が多いのだから、この集計は平均値だとも考えられないか。
- 委員 本当に欲しい数字は個別の数字なのではないか。
- 委員 集計は集計であって、そこで見えないような部分はヒアリングでお聞きしたということではないか。
- 座長 集計表の最初に障害別の数字を付けると分かりやすいと思う。アンケートについては現状を伝えるのが大切である。
- 委員 回収率が50%を下回っているので、読み取りにくい。
- 委員 全体アンケートを行っても、あまり傾向は変わらないのではないか。種別集計は出しても良いと思うが、集計から何かをつかむのは難しいので、あまり深読みしないほうが良いと思う。
- 委員 アンケートはおおよその傾向をつかむために行ったはずである。
- 委員 精神障害は約220人だが、ほとんどの人はアンケートを行っていないし、ヒアリングも行っていない。アンケート結果がいきなり出ても分からないと思うので、そういう点は今後も検討しなければならない。
- 委員 アンケート自体は行うと決めて行ったのだから、結果は結果として報告すべきである。回収率が少ないのも結果である。
- 座長 結果はありのままを報告することになる。
- 委員 本来は集計から分析に進まなければならない。
- 委員 アンケートだけでなく、ヒアリング等の意見も含めて論点と課題に落としていくということだと思う。
- 座長 アンケートもひとつの材料として整理していくとういことである。論点と課題の部分はどうか。6項目挙げているがこれ以外に何かあるか。
- 委員 6つを4つにまとめてみてはどうか。3の全廃以外の代替案と4のセーフティネット、2の新規事業の明確化と6の基本計画推進はそれぞれ関連性が深いと思う。まとめるか、近くに並べるかはみなさんで検討して欲しい。
- 委員 各項目について具体的な意見を付けると分かりやすいのではないか。
- 座長 もう少し付け加えないと自立支援協議会での議論がしにくいかもかもしれない。
- 委員 6の障害者基本計画の必要性についてに疑問がある。計画推進は必要に決まっているので、必要性という語句は不要なのではないか。また、全体を時系列にまとめられないか。

- 委員 自立支援協議会に示すものである。基本的に、他の委員は8月5日の市の提案以降の情報が無いので、提案以降の小委員会の活動や、ヒアリング、要望書等の関連するものの経過が分かるものが必要だと思う。考える材料なので事実を伝えることが大切である。論点と課題の整理はもちろん必要だが、アンケート集計でも扶助料が無くなったら困る人もいるということ、反対意見も含めて検討しなければならないと思う。
- 座長 全体の関連などが分かる一覧表を付けると良い。
- 委員 小委員会での議論も整理して載せるべきであると思う。
- 座長 課題の並べ方はどうか。
- 委員 重要性のあるものから並べたほうが良いと思う。
- 委員 10月5日の施策推進協議会でも会長が小委員会の報告書をみて方向性を検討しようと言われたので、報告書はとても重要であると思う。
- 座長 さきほど一部をまとめてはどうかという意見もあったが、順番などはどうか。
- 委員 さきほどの意見をもう一度説明して欲しい。
- 委員 3の代替案と4のセーフティーネットはこれからの本質だと思うので重要であり、1のスケジュール等はそれに付随する部分だと思う。1も大切だが、3が一番になるのではないかということである。
- 委員 スケジュール等の部分ではどの程度をいうか。
- 座長 中身をどの程度記述するかということか。
- 委員 重要な項目を最初に記述すると考えて良いのか。
- 委員 そうだと思う。
- 委員 そうすると1と3・4はどちらが重要か。
- 委員 やはり3と4が重要なのではないか。
- 座長 3と4が最初、次に1、2、5、6となるか。
- 委員 2と3も関連しないか。
- 委員 スケジュールに関する意見は多かったが、1番大切なのは扶助料制度がどういう意味を持っていて、どのように改正しなければならないか、またもし廃止するならどのようなものを用意すれば皆さんが納得できるのかという部分が本質ではないかと思う。
- 委員 ヒアリングでの意見を見ると、扶助料の重みが良く分かる。
- 委員 ヒアリング等での意見を見ると反対する意見も多いので、廃止に対してどう思っているかという論点整理も必要なのではないか。それに対して代替案をとというような流れになればよいと思う。
- 委員 ヒアリングをした人は、これからの本質の意味は分かるかもしれないが、そうでない人は分からないと思う。
- 委員 そういう部分が分かっただけからスタートだと思う。まだテーブルにつけない人が多い。
- 委員 それを本当に行い、今の市の提案をある程度の形にするには、莫大な時間が

かかる。扶助料の廃止の問題と基本計画推進は別物として考えなければならぬ  
いかかもしれない。

委員 今回は扶助料廃止の点でまとめなければならない。

委員 あまりこの件を急ぐと、何か違う問題が起きてくるのではないか。よい折衷  
案などがあればよいが。

座長 それを3や4の点で考えていけば良いのではないか。

委員 ここでいろいろ検討しても、その情報が多くの人に届かなくてはいけない。  
矛盾するかもしれないが、予算を投入してでも情報や人が集まる場所が必要だ  
と思う。各団体も加入者は少ない。

委員 関心を持ってもらえないのが現状である。

委員 動けない人や交通手段の無い人もいる。全てに情報を伝えるのは難しい。

委員 相談支援事業を強化して訪問することが必要だと思う。

委員 それを先に行わなければいけない。

委員 実態を知れば知るほどここでの責任を感じる。

委員 実態を先につかんで良い方向に向けていくのが大切である。

委員 今回の件である程度、機運も高まったと思うのでその点は良かったと思う。  
扶助料の見直しは必要だと思うが、3月までは無理。全員に知らせる必要もあ  
る。ヒアリングやアンケートで、私たちが今まで知らなかったことが見えてき  
た。これは財産であるのでここからどうするかが日進の福祉を考えることだ  
と思う。

委員 知的の子どもを持つ親のグループでは、ゆっくりしていられないという思い  
もある。

座長 時間を掛けてじっくりやりたいという意見と、ゆっくりしていると子どもが  
成長してしまうという意見の両方があるということだが、両方大切である。

委員 基本計画の推進が扶助料の中で行わなければならないということが最終的な  
事実であれば何らかの形で実現していきたい。

委員 そういう点で、セーフティーネットなどが出てきている。全廃ではなく本当  
に必要な人には必要な施策を考えていかなければならないということを自立支  
援協議会に提案していくということである。

座長 ここまで意見が出ているので、例えば全廃ではなく段階的になどという提案  
や、セーフティーネットの点では本当に困っている人に対してどうするかとい  
う課題も提案もできる。戻るが、項目の順は3と4を最初にして、1、2、5、  
6とする。6について表現に違和感があるというような意見があったが、この  
中身は、新規事業への言及ではなく、明らかに計画を推進して欲しいという意  
見があったのでこの点も必要だと思う。しかし、他の課題の部分を十分踏まえ  
て推進しなければならないという内容である。項目立てはこのようにして、中  
身についてはどうか。

委員 扶助料が未来永劫続くとは思えないし、ずっとこのままでいいと思っている

人もいないのではないか。今の5000円で十分だと思っている人もいないと思うので、より困っている人には手厚くする仕組みにしていくという提案も必要だと思う。通院費、通所費、ガソリン券などという意見もあった。そういう部分は少なからず基本計画にあるので、具体例を記述しても良いのではないか。また、提案の方法としては2つあると思う。1つは、扶助料制度を存続させたまま、現金給付をのこしたまま制度変更していくということ、2つ目は、全廃した上で違う制度を作っていくのかということである。それぞれの具体的な提案も必要なのではないか。

座長 例えばセーフティーネットは現金給付ということか。

委員 その点は両方だと思う。自立支援協議会の委員の皆さんには具体的なものがあつた方が分かりやすいと思う。可能な限り具体的な案があつた方が良いのではないか。

事務局 具体案を示していただくのは良いが、最終的には市が考えることになる。今は扶助料見直しを提案させていただいている段階で、それに対してご意見をいただきたいということである。提案を求めているものではないので、あまり具体的なものはどうかと思う。ヒアリングやアンケート結果から、どういう点にどのような配慮が必要なのか、留意が必要かというような点でご意見をいただきたいと考えている。

委員 具体的に書けないのであれば、例えば移動支援に対する配慮が必要だというような表現にすれば良い。

事務局 さきほど委員の意見でもあつたが、この委員会では何らかの形で見直しは必要だという点で共通認識があり、それを踏まえた上でどういう点に配慮が必要なのかという点が課題であると思っている。自立支援協議会からご意見をいただいた後には、市の案を見直して、施策推進協議会で議論していただくので自立支援協議会の段階で決まってしまうものではない。

委員 本日の作業はどこまで行うのか。

事務局 11月4日の自立支援協議会に報告書を提出したいので、本日の報告書案の修正すべき点をあげていただき、来週の小委員会でもとめたい。また、本日もいただいたご意見で、追加すべき部分や資料的なものなどは追加作成する。

委員 8月5日からの経緯については、必ず一覧表のようなものを追加して欲しい。

座長 他に意見等はないか。

委員 新事業の明確化が具体的になっていないという部分について、当事者の声を聞かずに行政主導で策定した施策、事業では意味が無いこと、従来どおりの陳情型の要望を繰り返しても効果が上がらないことなどの反省を踏まえて、自立支援法では全国の市町村に自立支援協議会を設置して当事者の声を確実に反映させていくしくみを作り上げることを目指している。この軸として自立支援協議会と総合的な相談支援センターをつくり、これからその仕組みを動かそうとしているということを周知していなかったため、誤解が生じてきたということ

を明記しなければならないと思う。この部分の共通認識があればこれほどの混乱は無かったのではないか。新事業に関する部分に対しては、これから確実な事業実施が行われるように当事者、市民、行政、事業所が協働して作り上げていくのだということがこれからの日進の福祉の仕組みであるということを書いておくべきだと思う。次に、手続き部分に関して、タイムスケジュールを延ばした場合に、なぜ延ばすのか、延ばした期間に何を行うのか明確にしないと、延ばした時間がただ過ぎていくだけになってしまう。具体的に何かを提案してそれを行っていくことと、目の前のことだけでなく、5年後10年後のことも踏まえて議論すべきという2点が重要だと思う。周知広報に関しては、自立支援協議会や総合相談センターなどの新しい仕組みでは、当事者の声が行政に届かないということがこれからは無いということ、また、行政に対する不信感を言われる意見もあったが、残念ながら今まではそうであったかもしれないが、これからは変えていくということを書いておかなければならないと思う。財源に関する部分については、市全体の無駄をなくして、福祉以外から財源をとという意見があった。これは正論だとは思いますが現実的には難しいと思う。財源確保してから新事業をとというのは国のレベルでも同じだと思うが、なかなか納得いただけないかもしれない。この部分は仕組みとして変わらないと思うので、その上で財源の議論をしなければならないと思う。

座長 未来志向で考えないと進まないと思うが、現状を踏まえ、どこまで課題として整理して自立支援協議会に提案していくかが難しい。

事務局 小委員会としてひとつの意見に集約していなくても良いと思う。いろいろな意見を併記するなどして、次の議論の材料を提供するという点でよいのではないかと思う。共通認識の上で課題としてまとめるが、例えば、障害別の立場での記述が足りないというのであればそこを書き足していくことも良いと思う。

委員 論点と課題はヒアリングやアンケートから整理したものなので、先ほどの委員の意見などは、自立支援協議会の中での委員の意見として述べてもいいのではないか。

委員 委員として、扶助料がこのままでいいのか、本当に困っている人だけを考えればいいのかなど、将来が見えるものにならないと不安になる。

座長 さきほどの意見はどうするか。

委員 コピーしてきたので委員だけに配布させていただく。あくまで私の意見である。

座長 他に意見等はあるか。

事務局 小委員会の役割は、論点と課題の整理としている。さきほどの意見は次のステップではないかと思うので、報告書はヒアリング等の結果から得られたことをそのまま伝えていけばよいと思う。委員個々のご意見は自立支援協議会で発言していただいたり、あるいはペーパーで出していただければよいのではない

かと思う。

委員 ヒアリングをしていろいろな意見を聞いていろいろな考えることができた。

委員 ヒアリング等ではエネルギーと時間を費やしたが、とても勉強になった。

座長 論点と課題に対するご意見などは2日以内に事務局へFAXなどで提出してください。市へ出された要望書についてはどうするか。

委員 内容を資料として末尾に付けてはどうか。

座長 氏名以外の部分を付けることとする。

事務局 本日の意見を反映して案を修正する。

(次回日程調整)

座長 次回は10月28日(水)14時からとする。